

11 コミュニティ

(1) 趣味などの活動をするときに困ること

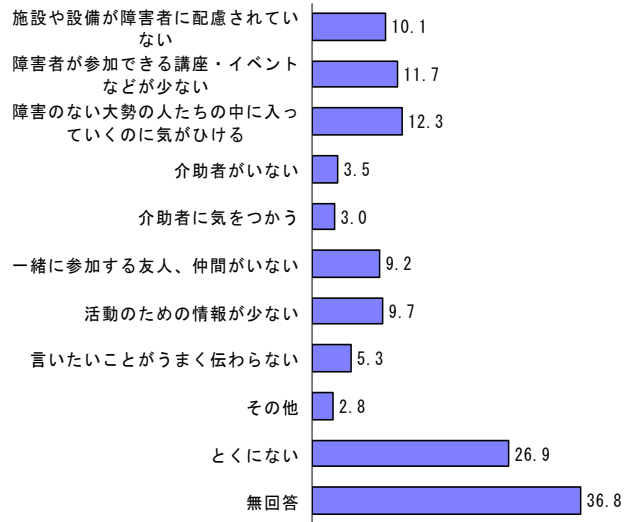
趣味や学習、スポーツなどの活動をするときに困ることは、知的障害者では言いたいことがうまく伝わらない(32.2%)が最も多く、コミュニケーションの問題が大きなものとなっています。これに次いで、障害者が参加できる講座・イベントなどが少ない(26.1%)、障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気がひける(22.1%)となっています。

精神障害者でも、大勢の人の中に入っていくのに気がひけることが多いとともに、一緒に参加する友人、仲間がいないことも20%弱と多くあげられています。

身体障害者は、全体的に回答が少ない傾向です。

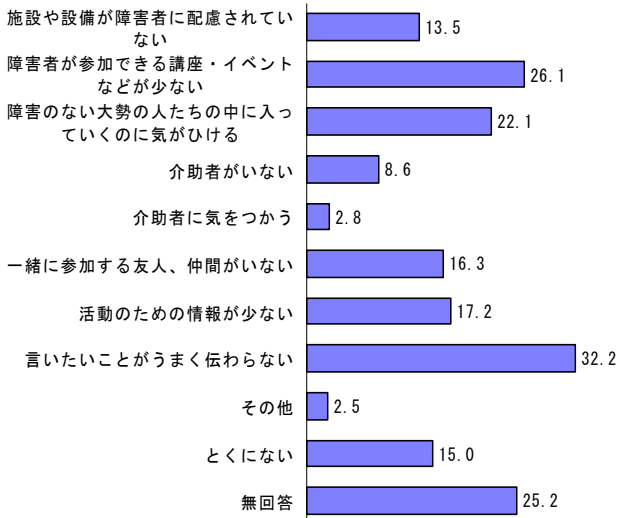
身体障害者 (2073人)

単位：%



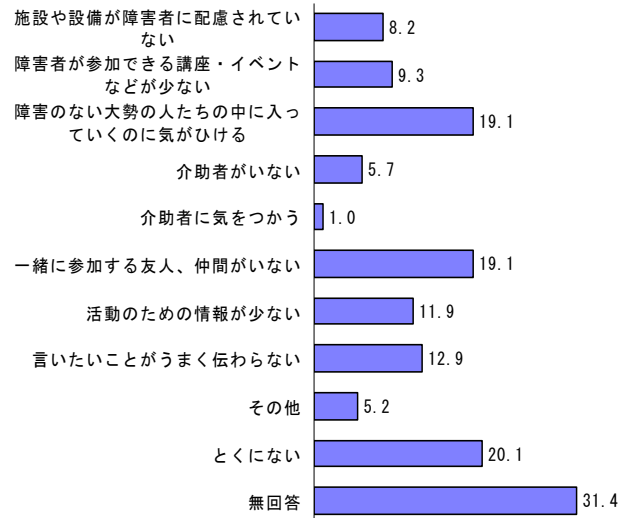
知的障害者 (326人)

単位：%



精神障害者 (194人)

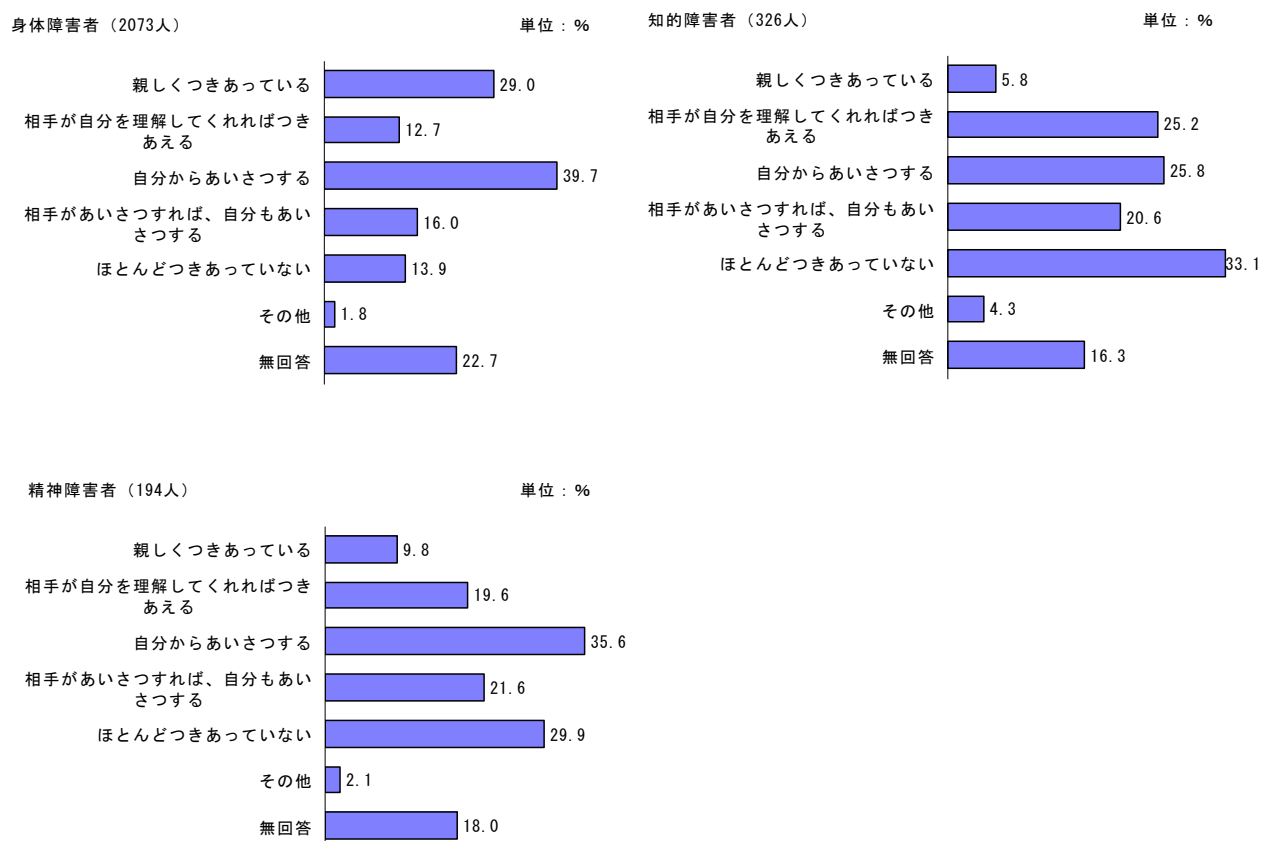
単位：%



(2) 近所づきあい

近所や地域の人たちとのつきあい方は、身体障害者では自分からあいさつしたり、親しくつきあっている人が多いが、知的障害者及び精神障害者ではほとんどつきあっていない人が 30%前後と多くなっています。精神障害者では、自分からあいさつする人も 29.9%と少なくない。

知的障害者では、相手が自分を理解してくれればつきあえるという人も 25.2%と多く、人とコミュニケーションの難しさがここでも表れています。



(3) とともに生きる社会をつくるために必要なこと

障害のある人とない人がお互いに理解しあい、ともに生きる社会をつくっていくために必要なことは、いずれの障害でも、障害のある人とない人が交流する機会、健常者が障害についての理解を深められるよう、健常者への情報提供の充実、学校教育のなかで障害や福祉に関する学習を充実する

このほか、身体障害者では、建物・設備などが障害者も利用しやすいように改善すること、知的障害者及び精神障害者では、障害の状況に応じて働けるよう、職場の就労環境の改善が多くあげられています。

